

意見陳述書

2025（令和7）年1月31日

佐賀地方裁判所 民事部 御中

原告 前島直美

1 私の経歴など

私の実家は茨城県南部のかすみがうら市にあり、祖父が創立した金属加工の工場を現在は弟夫婦が引き継ぎ、約50名の社員と会社を守ってくれています。私は地元の小中学校に通い、高校では理系クラスに進みました。

大学は理学部物理学科に入り、学部時代には、放射線を含む多くの実験を経験し、また教職課程で化学・地学・生物学も学び、他にプログラミング講座なども取りました。物理学専攻で大学院修士課程まで進みました。

大学院卒業後は、SEとして上場企業に就職し、大企業に出向してシステム構築等に携わることもありました。残業も多く、その分収入も当時の男性並みかそれ以上だったと思います。知人の紹介で番組制作をしていた男性と知り合い、結婚し、杉並区の駅のそばの小さなマンションで生活していました。

妊娠を意識するようになって、食にも気を付けるようになり、無農薬や減農薬の野菜や飼料や育て方にこだわった肉類を選ぶようになりました。息子を授かってからは、可愛くて仕方なく、仕事はしつつも、食にも子育てにもこだわって大切に育てました。実家の両親も大喜びで、弟夫婦に子どもがいないこともあり、息子に対し、後継ぎを期待されているように感じました。

2 原発事故当時から避難まで

2011年3月11日、私はいつものように、当時2歳だった息子を保育園に預けて仕事をしていました。大きな揺れで液晶モニターが倒れないように押さえつつ、頭上の蛍光灯を気にしながら、揺れがおさまるのを待ちました。電車も終日動かず、3時間かけて歩いて帰宅しました。息子も夫も無事だったのは幸いでした。それから数日の間に、原発が次々と爆発する映像がニュースから流れていましたが、227kmも離れた東京の杉並区まで影響が

あるとは思いません、大変なことが起きているなと思いつつ、他人事としてテレビを眺めていました。

しかし、福島原発事故から10日ほど経った同年3月23日、東京の水道水でも放射性ヨウ素の汚染が見つかったと大きなニュースになりました。水はどこも売切れで、家族の飲用に汚染されていない水をインターネットで注文してどうにか確保しなければなりませんでした。

さらに、水だけでなく食材にも放射能汚染が見つかるようになりました。それまで利用していた生協の無農薬や減農薬の野菜は、ほとんどが関東産や東北産でした。食べ物を選ぶ基準が、「なるべく無農薬・無添加」から、「内部被曝の予防」が最優先となりました。産地偽装問題も持ち上がり、肉や卵は育った可能性のある地域や飼料、魚は海流を調べる必要があり、回遊魚ならどこを回遊するか、魚の種類によっても汚染の度合いが異なるため、今までの汚染データから食べてもいいかを判断する...、買い物しながら泣きそうになったこともありました。そのうち、西日本のこだわりの食材メーカーが見つかり、そこで野菜や肉類を購入するようになりました。送料もかかり食費はそれまでの倍以上になりましたが、放射能汚染を気にせず買い物ができることがありがたく、当時の楽しみの一つになっていました。

原発事故後の4月に、満開の桜の近所の公園に散歩に行きました。息子は興奮して舞い散った花びらを集めては花吹雪にして遊んでいました。桜の花びらや一緒につかんだ土が目や口に入り、払ってあげたりしました。心の奥でわずかな不安を抱えながらも、息子と花見を楽しみました。

5月頃、都市圏で放射線量の高いいわゆるホットスポットが週刊誌などに取り上げられるようになりました。杉並区の区議会議員さんが、杉並区内の公園の線量測定結果チラシをくれました。滑り台の下の子どもが尻もちをつくあたりの線量が特に高くなっていました。現実を突きつけられ、公園で子どもと遊んだことを深く後悔し、マンションの目の前の公園でさえ遊ばせることもできなくなりました。風の日には、福島から風下になっていないか風向きを確認し、舞い上がる放射性物質に怯え、外を歩くときも、地べたに座る子どもを慌てて立たせ、子どもに土も触らせられない。雨が降ると、子どもが濡れたことに恐怖を感じ、慌ててお風呂に入れ

る。そんな日々が続きました。

職場の友人たちとも放射能汚染の心配が少ない食材や、室内で子どもを遊ばせられる児童館の場所、安全な食材を使っている店などの情報交換をしつつ、杉並区での生活を続けていました。

そんな中、11月に、杉並区の小学校の芝生の養生マットから1kgあたり9万Bqを超える放射能汚染がみつかりました。この養生マットは1kgあたり12㎡。つまり、杉並区では12㎡の土地から毎秒9万回放射線が飛んでいたということになります。同じ頃、横浜市でも堆積物から195Bq/kgのストロンチウム、10万Bq超えのセシウムが見つかり、関東も放射能汚染されていることが次々と明らかになりました。

日々の原発関連ニュースの中に汚染水についての情報も見受けられるようになりました。大学院時代に生体系も扱う研究室であったことから、DNAが水分子によって螺旋構造を保っていることを知っていたため、トリチウムを組み込んだトリチウム水が、DNAを傷つける可能性が高いのではということにも思い至りました。

情報収集をしていると、チェルノブイリ原発事故後、汚染地域の子供達にチェルノブイリハートと呼ばれる心疾患や様々な障害、知能指数の低下、東京と同程度の汚染と言われるキエフでも甲状腺ガンによる全摘出、200km離れた村でも23%に白内障が生じる等、子どもたちに様々な疾患が増加したというようなレポートがありました。もちろん、汚染地帯に住む全員に放射線障害が生じるわけではないと思います。しかし、もし、私の子どもに被ばくが原因と考えられる症状が出たら？それで命を落とすようなことがあったら？と考えずにはいられませんでした。

様々な情報を総合し、西日本への避難を考えるようになりましたが、勤務先の会社は西日本での仕事がなく、夫も同様だったので、西日本へ避難するなら仕事は夫婦揃って退職せざるを得ませんでした。今の経済的に安定した生活を捨てて避難するべきか悩みに悩みましたが、いくらお金があっても、息子が病気で死んでしまったら意味がないという結論に至りました。夫婦とも仕事を辞め、2012年1月に家族3人で福岡県春日市へ自主避難しました。

福岡に来て、最初に入ったスーパーで陳列棚に並ぶ九州産、西日本産の野菜や肉類などの多さに、とても安堵したのを覚えています。

3 避難後の生活

夫は福岡での就職がうまくいかず自営業を始めましたが、生活費を入れてくれることはなく、夫婦関係も崩れ、別居から離婚へと至りました。私も、福岡での就職後にパワハラ等に遭い、働けない時期もあり、子どもの教育資金のために貯めておいた1000万円も、生活費に消えていきました。原発事故さえなければ、と思わずにいられませんでした。自主避難だから自己責任だという気持ちで、全て飲み込んできました。

避難後に、東京で息子が桜の花びらで遊んでいたときに履いていたズボンや、室内ではあるものの錆びて閉じられなかった小さな換気口近くに掛けていたワンピースの放射能測定をしました。測定結果からは、福島原発事故由来と思われるセシウムが検出され、衝撃とともに「やはり」という気持ちになりました。息子が、無邪気に桜の花びらで遊んでいた光景は、私の心を抉る場面となりました。衣類も持ち物も全て捨ててきたという自主避難者の友人の言葉が正しかったのだと気付かされました。

原発事故からもうすぐ14年。避難当時2歳だった息子も、今では高校生となり、部活に打ち込んでいます。避難したことを責められたことはなく、放射能汚染を気にすることなくのびのびと育った息子を見て、改めて、避難して良かったと思っています。

原発事故直後には、当然、脱原発が進むと思っていました。しかし、喉元すぎて熱さ忘れた多くの国民、特に福島原発事故で影響の少なかった九州を含む西日本の方々が狙われ、玄海原発も再稼働してしまいました。さらに、国が主導してGX（グリーントランスフォーメーション）などと、さらに原発をつくらうとしています。

私は、現在、学童保育と通信制高校の理科の非常勤講師などを掛け持ちしています。

地学の授業準備をしていると、日本列島が4つの大陸プレートからできているため地震が多く、南海トラフのような大地震がいつ起こるか分からないことや、日本海側に流れる海流が玄海原発沖を通ることを再認識させられます。玄海原発で事故が起き、福島と同じように汚染水が海に流れ込んでしまったら、日本海が全て汚染されてしまいます。空中に放出された

放射性物質は偏西風で、日本列島に広く拡散され、東日本まで汚染が広がってしまうでしょう。

化学の授業準備をしていると、原発によって作り出されるトリチウムとトリチウムを組み込んだ水のこと、人類の科学力ではトリチウムを除去する術がなく、環境にそのまま放出されていることに、不安が募ります。半減期が数十万年という使用済み核燃料の保存も、土地代だけでも膨大ですし、それは、何世代も先の子孫からの搾取でしかありません。

物理学の授業準備をしていると、水蒸気でタービンを回して電気を得るためだけに、なぜ地域住民が被ばくを強いられなければならないのか疑問が募ります。電気を大量消費する都市部への長距離送電の間に、大量に損失するのも不合理です。物理で様々な単位を扱っていると気づくことがあります。例えば、通常なら Bq/kg あるいは Bq/L を使用しているのに、大きな汚染が発覚した場合には、Bq/cm³ という、数値だけ見ると 1/1000 になる単位で発表していたこともありました。また、測定についても、しばらく放射能市民測定室でボランティアをさせてもらった経験から、測定時間を短くすることにより検出限界値を大きくし、いくらでも検出にできることも知りました。

原発事故から現在までの 14 年間弱の原発再稼働や原発事故への対応について、人間の愚かさを認識せずにはいられません。

4 これから

私は、仕事もお金も失い、実家に身を寄せることもできなくなりましたが、それでも、避難したことに全く後悔はありません。

現在、縁あってお付き合いしている人がいます。彼は、佐賀県伊万里市に先祖代々の土地を持っていて、山もあるそうです。玄海原発から直線距離で約 20 km のところに自宅があります。玄海原発のことを考えると、お付き合いを迷いました。ひとたび、原発事故が起きれば、彼の家も山も放射性物質に汚染されて、毎年取れるという筍も食べられなくなるでしょう。それどころか立入禁止区域になるかもしれません。原発は放射能汚染またはその可能性によって、本人とは関係なく人々や土地の価値を下げ、あるいは無くしてしまいます。

いずれは彼と一緒になろうと話していますが、玄海原発があるために、手放して喜ぶことが

できません。原発が稼働する限り、事故の可能性はあります。チェルノブイリ、福島が証明しています。一度放出された放射性物質は元に戻りませんし、放射性物質をコントロールする技術もほぼなく、廃炉もできていません。まだ達成されていない科学の発達に縋るような発電、政策を推し進めるのは異常です。

彼に見せてもらった玄海原発の避難計画は、風向きに関係なく、避難場所が決まっています。福島原発事故の際に、放射性プルームと一緒に風下に避難し、さらに被ばくしてしまった住民達の教訓が活かされていません。事故を教訓に愚かな繰り返しを防ぐのが司法の力だと信じています。もう誰にも被ばく者にも、避難者になってほしくありません。原発を止めてください。

以上